

くまもとのさかな

熊本の漁法

■打たせ網漁(うたせあみりょう)

海水の流れと風を船の横面に受けて、網(あみ)を投げ入れ帆(ほ)を張り、風で網を引きます。船の前後に、それぞれ約6mの張り出し木をつけて、一度に7つまで網をひけるようになっています。この漁でとれるものは、アシアカエビ、ハモ、カレイ、コチなどです。観光として漁を行っている船もあり、体験することもできます。主に芦北(あしきた)地方で行なわれています。



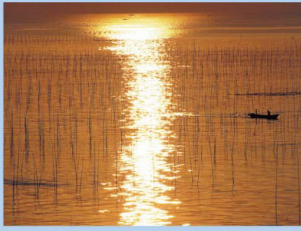
■棒受け網漁(ぼううけあみりょう)

光に集まる魚(あじ、さば、いわし類)の習性を利用して、灯(あかり)で群(むれ)を集めて、ふるしきのような網ですくいあげます。毎年8月ごろ、この漁が始まります。



■ノリ養殖業(のりようぎょう)

ノリは、春から秋まで、細い糸のような形となり、カキの殻(から)の中で育ちます。海では、9月からノリ網(あみ)を張る柱(はしら)をたてるなどの準備(じゅんび)が始まります。10月には、カキの殻から胞子を出させて網につけ、その網でノリを育てるのです。ノリが10cm以上に育ったら専用の船でつみ取り、乾燥(かんそう)して板ノリにします。身近なものでは、コンビニのノリおにぎりに、「熊本のノリ」が多く使われ、年々食べられる量もふえています。ノリはビタミンAやタウリンなどを含む健康(けんこう)に良い食べものです。



■採貝漁業(さいかいぎょう)

菊池川、白川、緑川などの河口に広がる広大な干潟(かんせつ)漁場では、主に4月から9月にかけてアサリ、ハマグリが、冬から春にかけては、タイラギなどが漁獲(りくわく)されています。

